

特別講演

演題

新しい対面授業を考える

講師：東京理科大学 教育支援機構教職教育センター 教授
渡辺 雄貴 先生
(わたなべ ゆうき)

【講師紹介】

東京理科大学教育支援機構教職教育センター・大学院理学研究科科学教育専攻 教授。教育支援機構教育 DX 推進センター Teaching and Learning 部門長。専門は教育工学，インストラクショナルデザイン（授業設計），学習環境デザイン。東京理科大学理学部卒業，東京工業大学大学院社会理工学研究科修了。博士（学術）。博士課程在学中より青山学院大学ヒューマン・イノベーション研究センター特別研究員，東京大学大学院情報学環特任研究員，首都大学東京（現東京都立大学）大学教育センター助教，東京工業大学教育革新センター准教授を経て，現職。著書に『授業を効果的にする 50 の技法—FD 研修の時代に向けて』（2004 年，アルク教育社，共著），『教育工学選書 14 大学授業改善とインストラクショナルデザイン』（ミネルヴァ書房，共著）など。



【講演要旨】

2020 年度の大学の授業は，それ以前の授業形態によらず，否応なく全ての授業がオンラインでの実施となりました。2021 年度後半から，対面授業が徐々に再開され，2022 年度には多くの大学で全面的に対面授業が実施できるようになりました。再開された対面授業は 2019 年度の対面授業と同じでしょうか。オンライン授業の経験により得られた ICT 利活用に関する知識やスキルにより変化があったのでしょうか。

大学教育の多様化が進む中で，「学びとは何か」，「授業とは何か」を再考するときが来ていると考えます。オンライン授業の経験で得たことをもとに，「新しい対面授業」とはどのようなものかについて，教育工学，特にインストラクショナルデザインの観点から考察を深めたいと思います。